

■市民意識調査から	2
■老人保健医療制度	8
■市長への提案から	9
■確定申告の受け付け	10
■公民館一覧	14
■スポーツ施設一覧	15
■表通り裏通り70余年の技がさえる	18

川越市に住みたい…およそ68%（市民意識調査から）

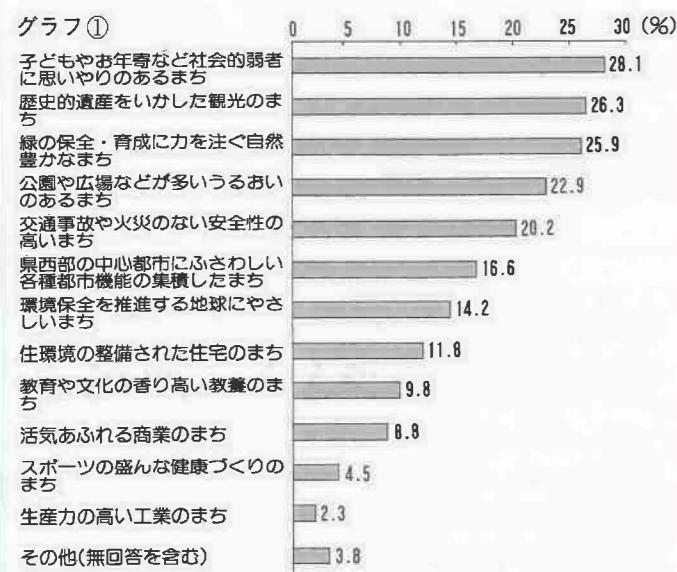


3 市民意識調査から

将来望まれる都市像

「思いやりのあるまち」が28.1%

将来の川越に望む都市像として、13項目の中から2つ選んでもらいました。いちばん多かったのは「子どもやお年寄りなど社会的弱者に思いやりのあるまち」の28.1%で、グラフ①の結果となっています。また、前回(平成3年)の結果との比較順位は、表②のようになっています。

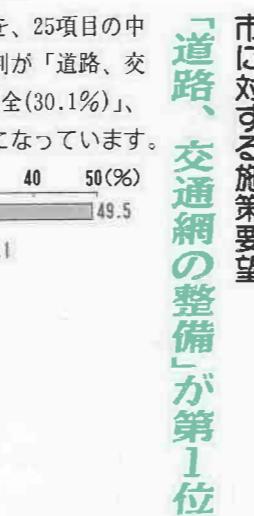
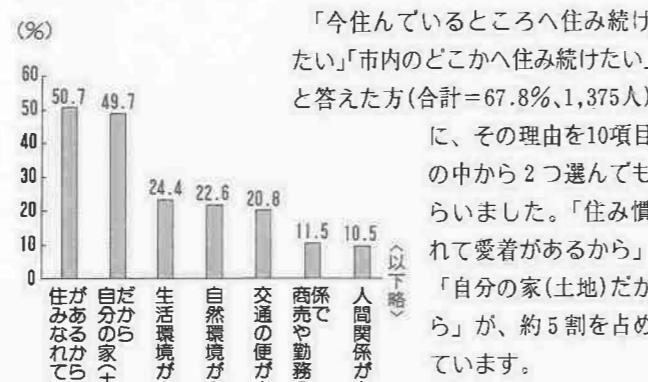


表②

順位 実施年	1位	2位	3位	4位	5位
平成5年	社会的弱者に思いやりのあるまち	歴史的遺産をいかす観光のまち	自然豊かなまち	公園が多いおいのあらわいのまち	安全性の高いまち
平成3年	自然豊かなまち	歴史的遺産をいかす観光のまち	社会的弱者に思いやりのあるまち	公園が多いおいのあらわいのまち	安全性の高いまち

定住を希望する理由

「愛着があるから」が5割を占める



調査結果のまとめ

市政全般

■将来、川越市をどのようなまちに

したらよいか

「子どもやお年寄りなど社会的弱者に思いやりのあるまち」が二八・一パーセントと最も多い回答。次いで「歴史的遺産をいかした観光のまち」(二六・三パーセント)、「緑の保全・育成に力を注ぐ自然豊かなまち」(二五・九パーセント)となっています。

今回の結果を平成三年度の調査と比較すると、前三位だった「子どもやお年寄りなど社会的弱者に思いやりのあるまち」が、今回は一位になっています。

四九・五パーセントと最も多かったのは、「道路、交通網の整備」。次いで「自然環境の保全」(三〇・一パーセント)、「公園緑地の整備」(二・七パーセント)、「社会福祉対策」(二・五パーセント)、「下水道整備」(一九・五パーセント)、「下水道整備」(一九・五パーセント)となっています。

今回の結果を平成三年度の調査と比較すると、前三位であった「下水道の整備」が五位に下がっています。それに対し、「公園緑地の整備」と「社会福祉対策」への要望が高まっています。

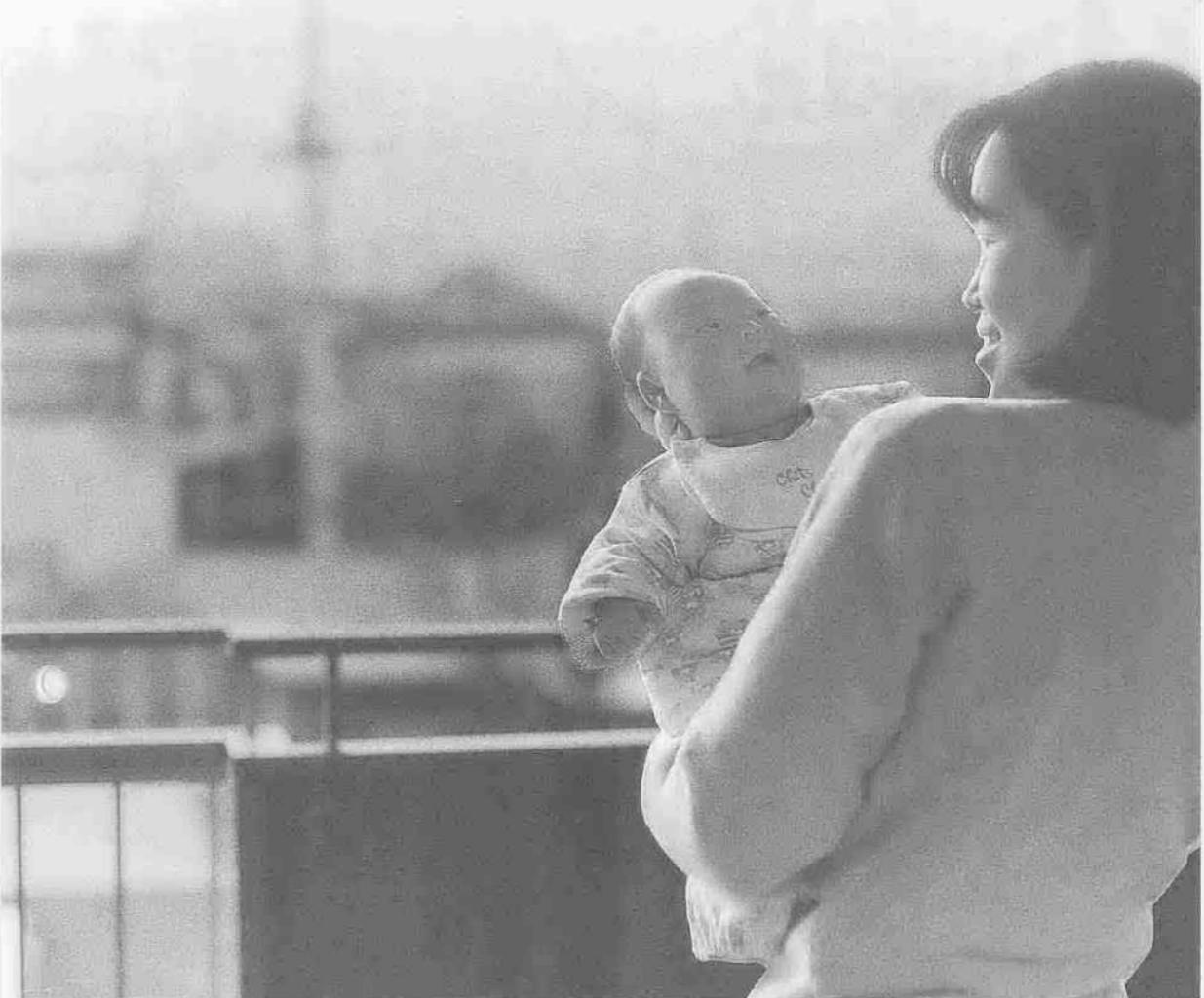
六割の方が「全体を見る」と答えています。それに次いで「事業・催し等のお知らせ」「まちの話題」が多くなっています。

「広報川越」の閲読内容

六ヶ月に「一回以上見てている方は二九・三パーセントとなっています。

■市の広報番組「わが街川越」の視聴状況

一ヶ月に「一回以上見ていている方は二九・三パーセントとなっています。



望まれる都市像は、「思いやりのあるまち」

第5回川越市民意識調査から

昨年八月に実施した「川越市民意識調査」の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

この調査は、市民のみなさんに、市政に対する意見や

生活環境に関する意識、将来への希望など、三十九問について伺つたものです。今回の実施は、前回の平成

三四年七月から一年ぶり、初回の昭和五十六年以来五回目となっています。

調査結果は、第一次総合計画策定の基礎資料、今後のあわづくらに反映させる目的で使われていきます。

調査の概要

調査対象：市内在住の二十歳以上の男女
対象人数：三千人(住民基本台帳から無作為抽出)

調査方法：郵送留め置き、郵送回収

回収数：二千二十九人

回収率：六七・六パーセント

調査期間：平成五年八月二十七日～九月二十八日
数値：①回答者全員を一〇〇パーセントとしたときの比率(パーセント)です。

②四捨五入の関係で、合計が一〇〇パーセントにならない場合があります。
③複数回答の場合、合計が一〇〇パーセントを超える場合があります。

■市に対する施策要望

■定住意識

定住意向は六七・八パーセントとなり、約七割近い方が川越市に定住を希望しています。しかし、前回と比べるとやや減少しており、「わからない」が増加しています。

「住み慣れて愛着があるから」が五〇・七パーセントと最も多く、次いで「自分の家(土地)だから」(四九・七パーセント)となっています。

「親切」「融通がきく」「能率的」「積極的」「サービス心」の五項目にわたって尋ねたところ、肯定評価はすべての項目で五割近くを占めています。そのなかでも「親切」は七割を超える比率です。

■市役所に対する印象

「交通の便がよくない」が四二・二パーセントと最も多くなっています。

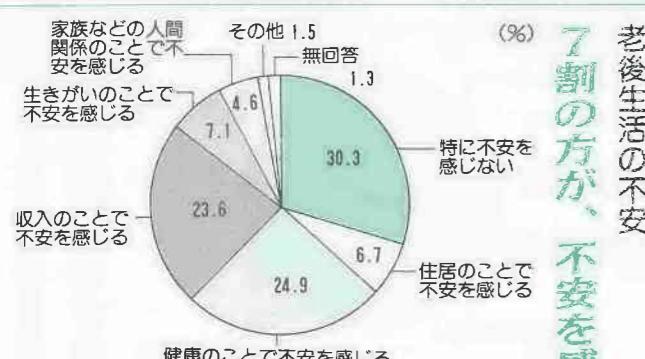
■広報川越の閲読内容

六割の方が「全体を見る」と答えています。それに次いで「事業・催し等のお知らせ」「まちの話題」が多くなっています。

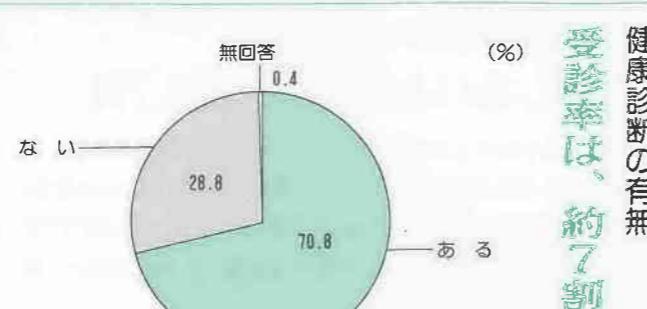
■市の広報番組「わが街川越」の視聴状況

一ヶ月に「一回以上見ていている方は二九・三パーセントとなっています。

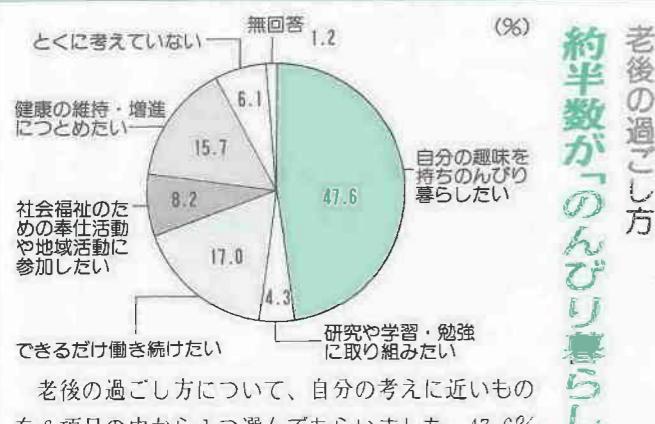
5 市民意識調査から



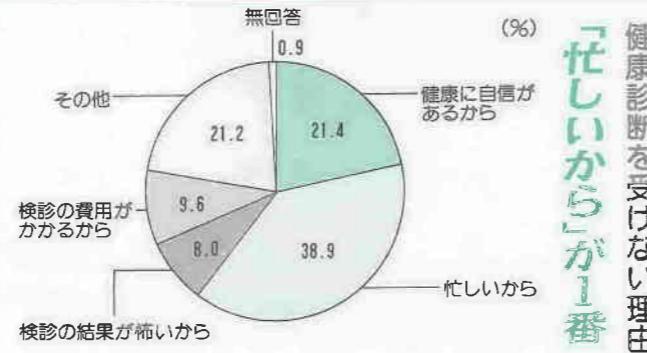
老後の生活について何に不安を感じるかを、7項目の中から1つ選んでもらいました。「特に不安を感じない」は30.3%で、何らかの不安があると答えた方は7割近い結果となっています。また、高齢になるにつれて「健康のことでの不安を感じる」が増加傾向にあります。



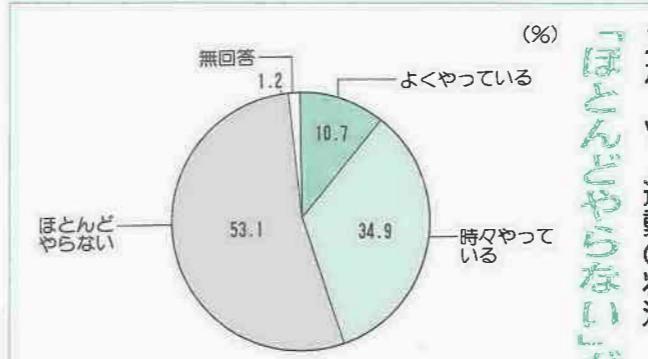
最近1年間に健康診断を受けたことがあるかを尋ねたところ、70.8%の方が受診しています。「ない」の性別では、男性は19.5%、女性は36.8%で、受けていない割合は女性の方が高くなっています。



老後の過ごし方について、自分の考えに近いものを6項目の中から1つ選んでもらいました。47.6%と最も多いのは、「自分の趣味を持ち、のんびり暮らしたい」。これは、年代別でも1位で、20歳代では63.7%を占めています。



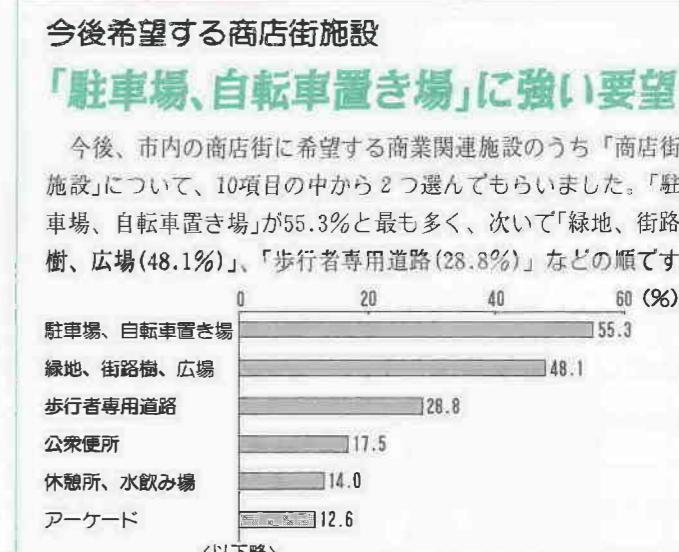
健康診断を受けたことが「ない」と答えた方(28.8%、584人)に、その理由を5項目の中から1つ選んでもらいました。「その他」の記入85件は、めんどくさいから(13件)、特に理由はない(9件)、機会がなかった(9件)、通院しているから(7件)などです。



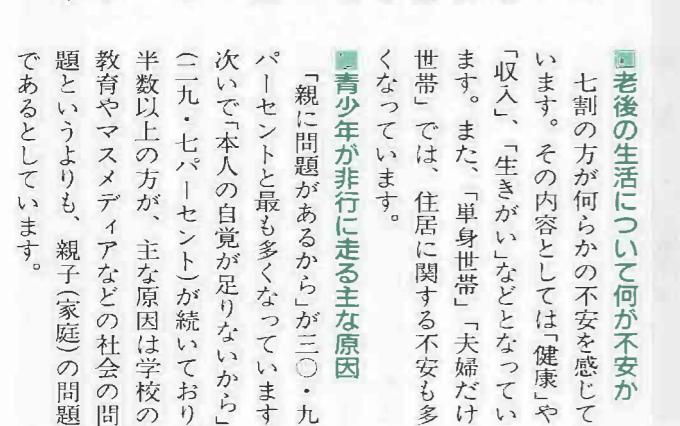
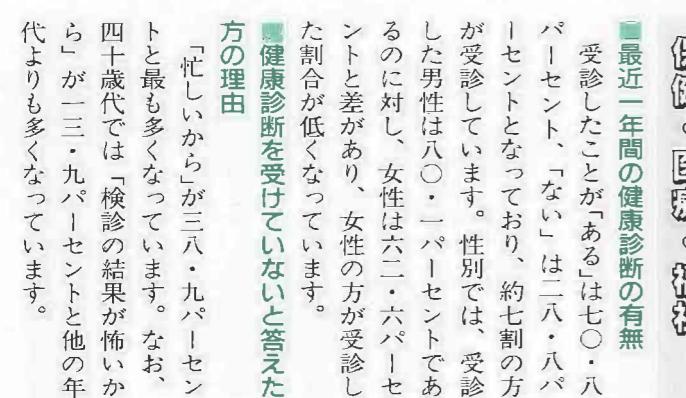
スポーツや運動をしているかどうかを尋ねました。「ほとんどやらない」方は53.1%と、約半数を占めています。よくやっている「時々やっている」を合計した性別の割合では、男性の56.2%に対し、女性は36.5%と、約20%の開きがあります。



約5割の方が、市内で購入
ほとんどの品物を市内で購入しています。



今後希望する商店街施設
「駐車場、自転車置き場」に強い要望
今後、市内の商店街に希望する商業関連施設のうち「商店街施設」について、10項目の中から2つ選んでもらいました。「駐車場、自転車置き場」が55.3%と最も多く、次いで「縁地、街路樹、広場(48.1%)」、「歩行者専用道路(28.8%)」などの順です。



■ 最近一年間の健康診断の有無
受診した方が「ある」は七〇・八パーセント、「ない」は二八・八パーセントとなつており、約七割の方が受診しています。性別では、受診した男性は八〇・一パーセントで、女性は六二・六パーセントと差がなっています。このに対し、女性は六二・六パーセントと差があり、女性の方が受診した割合が低くなっています。

■ 参加メンバーとしてが第一位
「参加メンバーの一員として」活動したいというのが第一位。「自主的な各種文化サークルの幹事として」
「婦人講座、老人大学、趣味の教室」
「文化活動にどのような形で参加したいか」
「参加メンバーの一員として」活動したいというのが第一位。「自主的な各種文化サークルの幹事として」
「婦人講座、老人大学、趣味の教室」

■ 文化・教育・レクリエーション活動
男性はスポーツ、女性は文化活動を基調としています。また、チームを組まなければできない集団スポーツ(野球、バーボンなど)への参加意向が高くなっています。

■ 文化活動にどのような形で参加したいか
「参加メンバーの一員として」活動したいというのが第一位。「自主的な各種文化サークルの幹事として」
「婦人講座、老人大学、趣味の教室」

■ 休日や自由時間の過ごし方
「家でゆっくり休養している」が四八・四パーセントと最も多く、次いで「まちへ出かける」(三〇・九パーセント)、「家事」(二三・二パーセント)となっています。性別でみると、男性は「家でゆっくり休養している」、「趣味を楽しんでいる」、女性は「家事」の比重が大きくなっています。

■ スポーツや運動をしているか
「ほとんどやらない」が五三・一パーセントと約半数を占めています。
■ 市内の商店街に希望する商業関連施設
「駐車場、自転車置き場」に強い要望

■ 教育・文化・スポーツ
「休日や自由時間の過ごし方」
「家でゆっくり休養している」が四八・四パーセントと最も多く、次いで「まちへ出かける」(三〇・九パーセント)、「家事」(二三・二パーセント)となっています。性別でみると、男性は「家でゆっくり休養している」、「趣味を楽しんでいる」、女性は「家事」の比重が大きくなっています。

■ 施設
「市内の文化遺産の周知状況」
全体的に周知度は高く、特に「蔵造りの町並み」「喜多院」「時の鐘」については、約九割の方が「見た」としています。また、「菓子屋横丁」は前回の調査よりも周知度が上がっています。

■ 市民の買い物動向
約半数以上の方が、ほとんどの品目別で唯一半数を切ったのは、「高級衣料品」。しかし、前回の調査と市内対市外の購入率(八・一%)と比較すると、前回は四一・二対四二・八、今回は四三・九対四〇・五と市内が市外を逆転、市内での購入が増加しています。

■ 産業
「市民の買い物動向」
約半数以上の方が、ほとんどの品目を市内の店で購入しています。しかし、若い世代では、品目別で唯一半数を切ったのは、「高級衣料品」。しかし、前回の調査と市内対市外の購入率(八・一%)と比較すると、前回は四一・二対四二・八、今回は四三・九対四〇・五と市内が市外を逆転、市内での購入が増加しています。

■ 農業振興において重要なと思われる施策
「農業経営の改善および合理化」が一番にあげられています。
「土や緑などの自然と触れ合うため」に何に参加したいか
「朝市」への参加希望が最も高く、その他でも「いも掘り、いちご狩り」といった、気軽に参加できるレクリエーション的なものに人気があります。
■ 農業振興において重要なと思われる施策
「農業経営の改善および合理化」が一番にあげられています。
「朝市」への参加希望が最も高く、その他でも「いも掘り、いちご狩り」といった、気軽に参加できるレクリエーション的なものに人気があります。
■ 農業振興において重要なと思われる施策
「農業経営の改善および合理化」が一番にあげられています。
「朝市」への参加希望が最も高く、その他でも「いも掘り、いちご狩り」といった、気軽に参加できるレクリエーション的なものに人気があります。
■ 農業振興において重要なと思われる施策
「農業経営の改善および合理化」が一番にあげられています。
「朝市」への参加希望が最も高く、その他でも「いも掘り、いちご狩り」といった、気軽に参加できるレクリエーション的なものに人気があります。
■ 農業振興において重要なと思われる施策
「農業経営の改善および合理化」が一番にあげられています。
「朝市」への参加希望が最も高く、その他でも「いも掘り、いちご狩り」といった、気軽に参加できるレクリエーション的なものに人気があります。

七十余年の技がさえる

日本刺繡

金糸や銀糸など多彩な色合いで、一針一針丹念に縫い上げられる優雅な日本刺繡。日本の風土の中で独自に発達し、着物や帯などさまざまなものに彩ってきました。元刺繡職人の浮ヶ谷菊次郎さん（86歳・木野目）は、この道七十三年。今もなお毎日のように刺繡台に向かい、黙々と縫い続けています。



「作陶展」

河肥焼の自信作を展示

真寿園の河肥焼真寿窯で活動する作陶グループによる「作陶展」が、一月二十六日(水)～三十日(日)に県立川越図書館で開催。昨年一年間に焼き上げた花瓶や湯飲み、皿、置物など二十三人の作品およそ百

点が出品されました。

今年で十四年目を迎える真寿窯は、六十歳以上の方を対象に、老後の生きがいづくりのために作られた工房。二組に分かれて一日置きに、土を練り、ろくろを回して作品を製作しています。

同グループ代表の代本元男さん（69歳・三久保町）は、「ひとりひとりが思い思ひに好きなものを作るのが河肥焼真寿窯の特長」と話します。メンバーは「窯を開ける瞬間の期待と不安、そして、焼き上がった時のうれしさは、例えようがない」と口々に話してくれました。

「バラエティーに富み、意欲的な作品に驚きました」と訪れた方が話していました。



表通り裏通り



初めての海外旅行

馬場章子(72歳・石原町2)

9月19日、私は娘の家族4人とオーストラリアへと旅立った。高校の生徒500人が同乗したので、私たちは2階のデラックスな座席へ案内されてラッキーであった。

オーストラリアは、時差が1時間であること、3月末ごろの気候であったことが老人の私には幸いであった。シドニーの青い海に、真っ白な貝をかたどったオペラハウスは、お伽話の風景を見るようにすばらしかった。はからずもオリンピックが開催されることが決まり、オペラハウスの屋根が五輪の色彩に縁取られ一層鮮やかになった。シドニー最後の晩、運良くミニコンサートの入場券が手に入り、一番大きなホールで聞くことができ最高。孫たちとタロンガ動物園やワラターパークの自然動物公園、シドニー水族館など見て回った。母親におぶさっているコアラの赤ちゃんをなでたり、お腹の袋から赤ちゃんが顔を出しているカンガルーのお母さんにえさをねだられて、思わず紙袋ごとえさをやってしまったことなど、旅の思い出は楽しい。

募集

★旅の空から「わたしの旅日記」

旅の思い出やエピソードをつづった400字程度の紀行文と写真を送ってください。国内旅行、海外旅行を問いません。

★イラストコーナーの作品

官製ハガキに季節感があるイラストを、黒インクで描いてください。着色・鉛筆がきは不可。作品の中に「表通り裏通り」のタイトルを忘れずに記入を。匿名は不可。

〈応募方法〉 住所、氏名（ふりがな）、年齢、性別、電話番号を明記し、〒350 川越市元町1-3-1 川越市役所広報課広報係へ



まーとふる

まちのできごと トーキー 109パレット 川越市の面積は109.18km²

貴重な文化財を守ろう

1月26日(火)の「文化財防火デー」に先立ち、1月24日(月)に、喜多院で防火訓練が行われました。『喜多院庫裏から出火』を想定。自衛消防隊による初期消火が行われ、消防車が到着すると一斉に放水を開始し、あつと言う間に“鎮火”。冬は空気が乾燥し火災が起きやすい時期。火の元に注意し、貴重な文化財を守り続けましょう。



市街地の緑を再発見！

市街地北部28か所の樹木を、写真を交えて現状や由来などを紹介する記録冊子「緑の探検隊」(B5判、37ページ)を中央公民館が発行。

緑を探しながら川越の魅力を再発見しようと、同公民館の講座に参加した親子8組18人が、現地調査をして原稿を書きました。同冊子は、中央公民館や図書館などでご覧になれます。



国連ボランティア名誉大使 中田 武仁氏



人の痛みがわかる心を

1月26日(火)、婦人会館で国連ボランティア名誉大使・中田武仁さんを講師に文化講演会が開かれました。中田さんは、昨年カンボジアで国連ボランティアとして業務中に殉職した中田厚仁さんの父親。厚仁さんの子どものころからの話を交えながら、「人の痛みがわかる心を」と講演。参加者は、熱心に聞き入っていました。

多彩な糸を使い、繊細で優雅な美しさを持つ日本刺繡は、日本の風土の中で発達してきました。その歴史も古く、奈良の中宮寺に伝えられる「天寿國曼陀羅繡帳」(飛鳥時代)が、現存する最古の作品といわれています。また、桃山時代、狩野吉信が京都の職人の風俗を描いたといわれる「職人尽絵」(喜多院蔵)には、「縫取師」として刺繡職人が描かれています。小さいときから絵が大好きだったという浮ヶ谷さん。東京都・京橋の店に十三歳(大正八年)で弟子入りし、この道に入りました。当時、刺繡職人のことは、「縫落(ぬけら)師」と呼ばれていたそうです。和

シーンと静まり返った仕事部屋。普ツ、普ツと針を刺す音だけが聞こえます。刺繡台にピーンと張られた生地の上を指に隠れてしまいそうな細い針が、リズミカルに動きます。糸の色と技法を駆使し、完成された様子を想像しながら両手を使って一針一針丹念に、根気よく縫い上げ、さまざまな模様が表現されます。

服や半襟などに刺繡をしていました。昭和三十年代後半に、美智子皇后の着物に菊の御紋を縫つたのが一番の思い出」と話していました。六十歳で一線を退きましたが、以後もお店から頼まれ、注文の品を頻繁に縫い上げていました。今では頼まれることも少なくなりましたが、「自分の好きなものを縫うほうが楽しい」と話しています。

十年ほど前から趣味で、額に入れて飾るため、金糸や銀糸を使い、鮮やかな家紋を作り始めました。うほうが楽しい」と話しています。動物園にたびたび行き、動物のスケッチをしてくるそうです。それを基に完成品を想像し、何十種類もの中から一本の糸を取り、何通りもある縫い方から適した技法を選んでいます。完成間近でも気に入らなければ何度もほぐして縫い直し、思つた色の糸が無いときは自分で染めてしまうそうです。

最近は、浮世絵を模写した作品などいろいろなものにチャレンジ。動物園にたびたび行き、動物のスケッチをしてくるそうです。それを基に完成品を想像し、何十種類もの中から一本の糸を取り、何通りもある縫い方から適した技法を選んでいます。完成間近でも気に入らなければ何度もほぐして縫い直し、思つた色の糸が無いときは自分で染めてしまうそうです。

毎日のように刺繡台に向かうといふ浮ヶ谷さんは、一度始めると夢中になってしまい、時間がたつのを忘れてしますほど。「これで完ぺきということはありません、一生が勉強ですね。将来は、夕焼け空などの風景にも取り組んでいきたい」と抱負を話してくれました。

親せきや近所の人から頼まれることも多く、すでに作品は、百点ほどにもなるそうです。六年ほど前に老人クラブの展覧会に何か出品してみないかと、近所の人に誘われたのがきっかけとなり、家紋のほかにも鳥や花の柄を縫うようになりました。



川越の伝説 82

キツネのはなし（福原地区）



むかしのおはなしです。明見院あたりはケヤキや雑木が生い茂り、昼でも暗く、人通りも少なかつたそうです。ですから、夜などはとても一人歩きなどできるものではありませんでした。ある日のことです。明見院のすぐ近くに住むたいへん働き者の娘さんが、となり村に用事があり朝早くでかけました。ところが帰つてくる頃は陽も秋父連山に傾き、うす暗くなつておりました。烟もありましたが、まだ原っぱがおおく、暗くなると目当てもなく歩きにくいところです。しばらく歩きますと、前の方に見おぼえのある林が目に入つてきました。よかつた！あの林を通りぬけたらわが家だと思うと、娘さんの足は自然と速くなりました。ところが進めば進むほど道が遠くなります。そして見おぼえのあつた林の道は、歩いても林の中です。おかしいと気がついてまわりを見まわしますと、どうも同じ道を何度も何度も歩いているようです。娘さんは途方にくれ、泣きだしてしまいました。そのとき、「おーい、おーい」と呼ぶ声がします。心配になつた家のものが、迎えに来てくれたのでした。後ほど聞いてみますと、娘さんは明見院の中をグルグルまわつていたそうです。もうそれからは、夜道の一人歩きは二度としなかつたそうです。

川越市教育委員会社会教育課刊行「続 川越の伝説」から



絵と文 池原昭治さん



編集日記

人間生活が環境に及ぼす影響は大きく、世界レベルで地球環境の保護が叫ばれています▶先日、建設省から環境政策大綱が発表されました。この中では、「人類が長い歴史を通じて環境を作り変えてきた経過」や「整備・形成・保全・継承の重要性」、「一国の枠を越えた課題に対する積極的な協力の必要性」などが述べられています。また、「健全で恵み豊かな環境を保全し、人と自然とのふれあいが保たれた、ゆとりとうるおいのある美しい環境を創造する」ために、21世紀初頭を視野においた政策課題と施策の展開方向を、総合的にまとめています▶次の世代へ贈る環境を真剣に考え、行動を起こすことが今、私たちに求められています。

わが街川越 番組ガイド

38ch テレビ埼玉 毎週火曜日 午後5時30分~5時40分 土曜午後10時15分~10時25分

■一部変更になることがあります。あらかじめご了承ください。

数字から見る川越 市民意識調査の結果

昨年8月に実施した「市民意識調査」。この調査は、市政に対する意見、生活環境に関する意識、将来への希望など39問について伺つたもの。番組では、調査の結果・分析から、数字から見る「川越の姿」を紹介します。

老袋の弓取式

2月11日(祝)に下老袋の氷川神社で行われる「弓取式」の様子を紹介します。天候を占い、豊年を願うこの行事は、県指定・無形民俗文化財。ユミトリが的をめがけ矢を射り、当たった場所で占います。さて、今年の結果は？

今、学校では 川越の湧水を探る

かつては野菜を洗ったり洗濯に使ったり、生活に深いかかわりを持っていた湧水。今では、住宅や工場などの開発で年々減少の一途をたどっています。砂中学校科学部は川越市内の湧水調査を行い、18か所を確認しました。

わたしひまちの
ときめきテレビ

★市立図書館で平成3年度放送分までの「わが街川越」が見られます。

2.15

TUESDAY

2.22

TUESDAY

3. 1

TUESDAY



老袋の弓取式